

令和3年度英語プレゼンテーションフォーラム水戸地区大会

自分の気持ちや考えを積極的に発信する力の育成を目指して

令和3年7月9日(金)

堂々と発表する生徒たち



湯浅所長「おめでとう！ 県大会でも自信をもって頑張って！」



7月9日(金)、水戸教育事務所において、グローバルな視野をもち、英語で自分の意見を発信し、他者と協働しながら課題を解決していくことができる人財の育成を目指し、「令和3年度英語プレゼンテーションフォーラム水戸地区大会」を実施しました。

新学習指導要領で学習する領域「話すこと[発表]」と「話すこと[やり取り]」を併せた内容の集団討議で、全国的にも先行的な取組です。今年度は、希望する学校が、事務所ごとに実施する各地区大会から参加する形で行いました。水戸教育事務所管内では、47校の国・公・私立中学校、義務教育学校後期課程、中等教育学校前期課程の生徒が参加しました。

各校で、様々な学年の構成による3名から5名のチームを作り、互いに協力し合いながら、テーマである「わたしがいばらき観光大使！『わたしが勧めるいばらきマイクロツーリズム』」について発表しました。発表後は、他チーム(リスナー側)とのSharing Time(共有の場)が設けられ、発表内容に関する感想やもっと知りたいこと等についてのやり取りを行いました。

プレゼンター(発表者)は、スライドや具体物等の資料を効果的に活用しながら、自分たちの住む町や茨城県の魅力、素晴らしさについて堂々と発表していました。Sharing Timeでは、想定外の質問に戸惑う様子も見られましたが、仲間と協力し合いながら一生懸命質問に答えていました。

リスナー(聞き手)は、初めて聞いた内容について自分の経験などを交えながら効果的な質問をしたり、ひとつの質問をもとにやり取りを広げたりすることに苦勞する姿が見られました。審査員の講評でも、「一問一答にならない工夫が必要」とのアドバイスをいただきました。引率の先生方がそれぞれに感じた本大会の課題を各校の教科部員会などで共有し、今後の授業改善に生かしていただければ幸いです。

審査の結果、代表7校の皆さんが、8月19日(木)に、つくば国際会議場において実施される県大会に出場します。県大会でも素晴らしいパフォーマンスを期待しています。

春夏冬話「あきない話」コーナー

いつも見る光景の中に

- ◆新型コロナウイルス対応の生活を送るようになり、週末、歴史館から偕楽園を通り千波湖畔一周の2時間弱の散歩をするようになった。
- ◆旧水海道小学校本館前を通り坂を下ると、池には蓮の葉が一面に広がり、色鮮やかな大輪の花がいくつも咲いている。つい先週まで辺りは紫陽花が主役だったが、選手交代し季節を繋いでいるようである。偕楽園に向かう道沿いの今年芽を出した竹は、すっかり伸び風に揺れている。
- ◆千波湖畔に着くと、思い思いに歩いたり走ったりしている人々と出会う。毎週見かけるランニングのグループは、今日も颯爽と走り抜けていく。あっという間に姿が小さくなっていく。
- ◆コロナ禍での生活となり、遠くに出かけられなくなったことは残念だが、いつも見る光景の中に、美しいものや驚くことが多いことに気付く。これからも、小さな変化を楽しみたいと思いながらも、以前のような日々を思いを馳せ家路に着いた。(by A・S)